

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎良質堆肥の生産と有効活用に努めよう。

＜要 約＞

1 乳用牛 ～分娩時の事故防止～

- (1) 分娩予定牛は、清潔で寝起きがしやすい環境で飼育する。また、足を滑らせないように敷料を十分に敷き、尿溝を鉄板等で防ぐなど事故防止に努める。
- (2) 分娩時は、経過を注意深く観察の上、けん引助産は慎重に行い、長時間経過しても分娩が進まない場合には、獣医師に診療を依頼する。

2 肉用牛 ～繁殖牛の退牧後の飼育管理～

- (1) 舎飼い開始時は、飼料を急に変えないようにする。分娩2か月前から概ね離乳までの期間は、過肥にならないように調節しながら、配合飼料の給与量を増やす。
- (2) 子牛の下痢、肺炎の発生が多い農場では、消毒や換気等対策を行うとともに、母牛へのワクチン投与を検討する。

3 豚 ～冬期間の飼育管理～

- (1) 寒さによる発育の停滞や飼料効率の低下を防ぐため、すきま風の防止や適切な保温などの防寒対策を徹底する。
- (2) 部外者の農場立入りを禁止し、豚舎の出入口で靴及び手指の消毒、靴の履き替え、作業服の着替えを徹底する。

4 鶏 ～衛生管理～

- (1) 部外者の農場立入りを禁止し、消毒設備の設置や家きん舎ごとの専用の靴を使用するなど、ウイルス侵入防止対策を徹底する。
- (2) 野生動物の侵入防止に努め、その排せつ物が飼料や飲水に混入しないようにする。

5 草地・飼料作物及び環境保全 ～越冬前の草地管理～

- (1) 経年草地は、土壌診断をした上で石灰や苦土等の土壌改良資材を施用する。また、堆肥は、十分発酵させ、土壌改良資材や肥料として活用する。
- (2) とうもろこしサイレージは、カビや二次発酵に十分注意し、適切に給与する。

6 秋の農作業安全運動展開中！

- (1) 県では、毎年10件前後の農作業死亡事故が発生していることから、農作業事故を防止するため、「秋の農作業安全運動」を実施。
- (2) 農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認！」を心がけ、安全第一で農作業事故を防止する。

7 ツキノワグマの被害防止対策

- (1) 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に務める。
- (2) 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整える。

8 農業保険

家畜共済など、自分の経営に合った保険に加入してリスクに備える。

報道機関用提出資料	
担当課 担当者	農林水産部 畜産課 経営支援グループ グループマネージャー 梶田 昌裕
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 内山 真人 内線 4966